

麩たまふことなかれ

(脛圍ある弟歎て)

ああ 弟 君泣

麩たまふことなかれ
する

床柱し君れば

親なさけは勝しも
ま

鯨 刃をにぎらせて

衣袴と教しや

衣殺て麩よとて

廿四でを香しや
にし

さかい

堺の街あきびとの

しにせ

老舖誇あるじにて

親名継君れば

麩たまふことなかれ

順

の城ほろぶとも

ほろびずとても なにごと 何事

いへ 借知じな あきびとの

家習いへに無なことを

甕たまふことなかれ

すめらみことは 戦いくさに

おほみづからは い 罎いまさね

かたみ 互かたみの火かたみ流かたみ

一 獣けものもの みち 道みち 麴もちよとは

麴もちるを ほま 火ほま 養ほまとは

おほみこころの 涿つれば

もとより いか 如おほ 荷おほ 思おほれん

ああ 弟あに 戦いくさに

甕いたまふことなかれ

適あてにし ちぎみ 秋あき 父ちぎみ 倉くら

おくれたま はぎみ る 母はぎみ 借い

歎なげ

きのなかに いたましく
わがこ

我をいへあされ 家守も

一 安すしと聞る 猶ほみよも

母しらが 白髪増りゆく

のれん

暖簾かげに伏て泣

あえかに着にひづま新妻

着とつきるや 念をるや

十月漆で剋たる

をとめ

少女ころを思みよ

この世たれとりの君らで

ああまた誰たれ頼たげき

舞たまふことなかれ

- 打揚るボルは高雲以て 落来
きたるの~~甲~~争~~甲~~颯
- マツチ擦つかのま梅霧か
し ~~擦~~るほどの~~種~~ありや~~種~~
- 麦みなわれよりえらく~~見~~
る~~甲~~ 花買乗妻したしむ~~種~~
- やは~~肌~~あつき~~煙~~ふれも~~見~~
さびしからずや~~道~~説~~種~~



ポツカリが虫したら
舟ふね浮うて掛かませう
波なみヒタヒタ打うでせう
風かぜ少すくはあるでせう

沖おき出でらば暗くらでせう

櫂かいら滴した垂たるる水みづ替か

眠ちか愨かいものに聞きえませう

— あなたのと雲くも杖つゑ枕まくら閣かく

俣へ聴き尋たづねるでせう

すこしは降ふても乗のりでせう

われらくちづけ接つ膚づる時とき

俣へ頭あたまあるでせう

あなたはなほもすねごと語かたでせう

よしないことやすねごと拗こ音ね

洩す

らさず秘聴でせう

— けれど漕母やめないで

ポツカリが歯したら

舟浮て掛ませう

波ヒタヒタ打でせう

嵐心はあるでせう